

令和8年度 松戸市立常盤平中学校 学習の指針(シラバス)

教科	国語	学年	1年
----	----	----	----

1 学習の目的

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。</p> <p>(2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。</p> <p>(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。</p>
--

2 学習計画

	学習内容	学習のねらい
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ○文学的文章 <ul style="list-style-type: none"> ・詩「ふしぎ」金子みすゞ ・読書「ベンチ」ハンス＝ペーター＝リヒター ○説明的文章 <ul style="list-style-type: none"> ・説明「自分の脳を知っていますか」池谷裕二 ○言語 <ul style="list-style-type: none"> ・文法「言葉の単位」 ・スピーチ「お気に入りの一品を紹介する」 	<ul style="list-style-type: none"> ○文学的文章 <ul style="list-style-type: none"> ・文学作品の構成や展開や描写をもとに理解する。 ・本や文章から必要な知識や情報を集めたり、それらを活用したりするための方法を身につける。 ○説明的文章 <ul style="list-style-type: none"> ・文章の中心的部分に着目し、内容を捉える。 ・文章の構成を捉え、要約に生かす。 ○言語 <ul style="list-style-type: none"> ・「文章、段落、文、文節、単語」を理解する。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ○文学的文章 <ul style="list-style-type: none"> ・小説「オツベルと象」宮沢賢治 ・詩「河童と蛙」草野心平 ○説明的文章 <ul style="list-style-type: none"> ・説明「森には魔法つかいがいる」畠山重篤 ○古典 <ul style="list-style-type: none"> ・古文「昔話と古典一箱に入った桃太郎ー」 ・古文「物語の始まりー竹取物語ー」 ・漢文「故事成語ー中国の名言ー」 ○言語 <ul style="list-style-type: none"> ・文法「文の成分」 	<ul style="list-style-type: none"> ○文学的文章 <ul style="list-style-type: none"> ・場面と描写を結び付けて読む。 ・語句の意味や擬声語・擬態語に注意し、その工夫や効果を理解する。 ○説明的文章 <ul style="list-style-type: none"> ・問いとその答えを見つけていく展開を捉えて読む。 ・筆者の考え方や述べ方を踏まえ、根拠を明確にしながらか自分の表現で筆者の考えをまとめる。 ○古典 <ul style="list-style-type: none"> ・古典にはさまざまな作品があることを知り、古典の仮名遣いにくれる。 ・漢文訓読のきまりを理解する。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ○文学的文章 <ul style="list-style-type: none"> ・小説「少年の日の思い出」ヘルマン＝ヘッセ ・詩「四季の詩」安西・ジャン・堀口・八木・三好 ○説明的文章 <ul style="list-style-type: none"> ・説明「子どもの権利」大谷美紀子 ○言語 <ul style="list-style-type: none"> ・文法「単語のいろいろ」 ・漢字「熟語の構成」 ・言語「日本語の文字」 	<ul style="list-style-type: none"> ○文学的文章 <ul style="list-style-type: none"> ・語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意する。 ・場面の展開や登場人物の心情の変化を、描写に基づきながら捉える。 ・それぞれの詩の題材を捉え、描かれたイメージを想像する。 ○説明的文章 <ul style="list-style-type: none"> ・問いと答え、事実と意見の関係を捉える ・事実と意見の関係、文章の構成や展開に注意して読み、筆者の考えを捉える。

3 評価

項目	評価の内容	評価の方法
知識 技能	①場面や目的に応じた言葉を選び、表現に注意して情報を伝えることができる。 ②敬意表現を適切に使った話し方ができる。 ③聞きやすい発声(声量・速さ・声の調子など)で話すことができる。 ④スピーチにおいて、大事なところを強調したり、間のとり方を工夫したりできる。 ⑤読み手が理解しやすい構成を意識して、文章を書くことができる。 ⑥表現技法の効果を理解できる。 ⑦代表的な古典作品のリズムや響きなどを理解できる。 ⑧慣用句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句の意味や用法、抽象的な概念などを表す多様な語句について理解することができる。 ⑨自立語や付属語、指示語や接続語などの類別や働きを理解し、使うことができる。 ⑩新出漢字を書き、文章や文の中で使うことができる。 ⑪筆順に気をつけて文字を正しく丁寧に書くことができる。	・定期試験 ・漢字テスト ・文法テスト ・スピーチ ・授業の様子
思考 判断 表現	<思考> ①客観的な根拠や理由に基づいて、自分の考えや意見を書くことができる。 ②文章の構成や論理の展開に沿って内容を読みとることができる。 ③事実や意見等を区別して読みとることができる。 ④登場人物に感情移入し、その心情を理解できる。 <判断> ①他者に配慮した話し方、聞き方ができる。 ②文章の構成や論理の展開に沿って内容を読みとることができる。 ③事実や意見等を区別して読みとることができる。 ④様々な描写をとらえ、内容を的確に理解できる。 ⑤登場人物に感情移入し、その心情を理解できる。 <表現> ①自分の考えや意見を整理し、根拠や理由を明確にした話ができる。 ②相手の話を受け、その内容を踏まえて自分の考えや意見を話すことができる。 ③場面や目的に応じた言葉を選び、表現に注意して情報を伝えることができる。 ④敬意表現を適切に使った話し方ができる。 ⑤聞きやすい発声(声量・速さ・声の調子など)で話すことができる。 ⑥大事なところを強調したり、間のとり方を工夫したりできる。 ⑦客観的な根拠や理由に基づいて、自分の考えや意見を書くことができる。 ⑧自分の気持ちなどが、正確に相手に伝わるように書くことができる。	・定期試験 ・作文課題 ・スピーチ ・授業の様子
主体的 に 学習に 取り組 む 態度	①自分で設定した課題に対して達成度を確認し、調整・修正しようとしている。 ②自分の考えをまとめようとしたり、進んで書き表したりしようとしている。 ③文章の書き手の思考や心情に迫ることができる。 ④様々な種類の文章に応じた読み方をして、内容を的確に理解しようとしている。 ⑤語句や文法、漢字について理解し、知識を身につけようとしている。 ⑥古典の音読や暗唱を通して、日本の伝統的な文化に親しむことができる。	・定期試験 ・単元の 振り返り シート ・漢字テスト ・授業の様子

4 「確かな学力」のためのアドバイス

1. 国語科の学習について

・国語科で身につけたい能力

- ・言葉の意味が正確に理解できて、その言葉を自分でも文字や音声で使いこなせる力
- ・自分の心の中にあるものを正確につかんで表現する力(文章表現力、口頭での表現力)
- ・人の表現したものを理解する力(読み取りの力)

そのために大事なことは…

- *表現の仕方に関心しながら、自分の考えを持つこと
- *言葉を自分の中に受け入れ、表現されていることを心で感じとること

・具体的に実践すること

- ①「話すこと」に力を入れ、スピーチの力を磨きます。そのために、「読む」(意見文や物語文の読解)→「書く」(意見文や分析文)→「発表」(スピーチ)という流れを授業に取り入れていきます。
- ②スピーチの力を磨くために、「書くこと」にも力を入れます。そのために、意見文や分析文を書く機会を設け、文章を書く力を伸ばしていきます。
- ③新出漢字を中心とした漢字の読み書きと言葉のきまりの学習では、新出漢字の書きを中心とした小テストを実施します。
言葉のきまりや知識については、1年次から系統的な学習をしていきます

2. 授業のきまり

①話し合いを活発に行うこと

まずは、自分の思ったことや考えたことをほかの人に話すことが大切です。話している中で考えがまとまってきたり、新たな考えが出てきたりします。話がまとまっていなくてもとにかく話してみましょう。

②他の人の話をしっかり聞くこと

上の①で書いたように話し合いを活発にするためには聞き手の反応が大切です。自分の考えを話すことは簡単なようで難しいことです。うなずいたり相槌を打ったりして話しやすい環境を作りましょう。

3. 授業で使う道具

- ・教科書 ・国語の学習(ワーク) ・タブレット
- ・ファイル ・単元別漢字 ・自主学習ノート(サイズは自由です)
- ・書写(持ち物は書道の授業の際に連絡します)

自分で準備するものは、「自主学習ノート」のみです。準備しておいてください。

4. 家庭学習

定期試験とは別に、漢字や文法のテストを行います。

国語力の基礎となる漢字の読み書きを定着させるためには、家庭での学習も不可欠です。

令和8年度 松戸市立常盤平中学校 学習の指針(シラバス)

教科	国語	学年	2年
----	----	----	----

1 学習の目的

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

2 学習計画

	学習内容	学習のねらい
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ○文学的文章 <ul style="list-style-type: none"> ・詩「虹の足」吉野弘 ・小説「タオル」重松清 ○説明的文章 <ul style="list-style-type: none"> ・説明「日本の花火の楽しみ」小野里公成 ・説明「水の山 富士山」 ○古典 <ul style="list-style-type: none"> ・古文「随筆の味わい―枕草子・徒然草―」 ○言語 <ul style="list-style-type: none"> ・文法「活用のない自立語」 	<ul style="list-style-type: none"> ○文学的文章 <ul style="list-style-type: none"> ・文学的な表現を通じて語感を磨き、語彙を豊かにする。 ・登場人物の設定の仕方や言動の意味などについて考え、作品を解釈する。 ○説明的文章 <ul style="list-style-type: none"> ・図や写真と文章とを関連づけながら内容を捉える。 ・説明の仕方という観点に着目しながら読み比べる。 ○古典 <ul style="list-style-type: none"> ・古人のものの見方や考え方に対して、自分の考えを持つ。 ○言語 <ul style="list-style-type: none"> ・活用のない自立語のはたらきを理解する。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ○文学的文章 <ul style="list-style-type: none"> ・小説「夏の葬列」山川方夫 ・読書「坊ちゃん」夏目漱石 ・短歌「短歌の味わい」穂村弘 ○説明的文章 <ul style="list-style-type: none"> ・評論「ガイアの知性」龍村仁 ・総合「持続可能な未来を創るために」 ○古典 <ul style="list-style-type: none"> ・古文「敦盛の最期―平家物語―」 ・漢文「孔子の言葉」 ○言語 <ul style="list-style-type: none"> ・文法「活用のある自立語」 	<ul style="list-style-type: none"> ○文学的文章 <ul style="list-style-type: none"> ・人物の描写や人称代名詞に着目し、その役割や効果について理解する。 ・時間の順序に留意し、人物の心情の変化や言動の意味について考え、作品を解釈する。 ○説明的文章 <ul style="list-style-type: none"> ・筆者が用いる語句の意味を捉える。 ・筆者の主張と具体的な事例との関係を捉える。 ○古典 <ul style="list-style-type: none"> ・古人のものの見方や考え方に対して、自分の考えを持つ。 ・言葉の意味を正確に捉えながら読み、作者の思いを想像する。 ○言語 <ul style="list-style-type: none"> ・活用のない自立語のはたらきを理解する。
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ○文学的文章 <ul style="list-style-type: none"> ・小説「走れメロス」太宰治 ・詩「豚」木坂涼 ○説明的文章 <ul style="list-style-type: none"> ・評論「学ぶ力」内田樹 ○言語 <ul style="list-style-type: none"> ・文法「付属語のいろいろ」 	<ul style="list-style-type: none"> ○文学的文章 <ul style="list-style-type: none"> ・抽象的な概念を表す語句の量を増やし、自分の表現に役立てる。 ・人称の変化に着目し、人物の心情や言動の変化を表すうえでの役割や効果を捉える。 ○説明的文章 <ul style="list-style-type: none"> ・本文の「述べ方」や表現の工夫に着目し、筆者の主張を捉える。 ・事実と主張の関係を捉える。

3 評価

項目	評価の内容	評価の方法
知識 技能	①場面や目的に応じた言葉を選び、表現に注意して情報を伝えることができる。 ②敬意表現を適切に使った話し方ができる。 ③聞きやすい発声(声量・速さ・声の調子など)で話すことができる。 ④スピーチにおいて、大事なところを強調したり、間のとり方を工夫したりできる。 ⑤読み手が理解しやすい構成を意識して、文章を書くことができる。 ⑥表現技法の効果を理解できる。 ⑦代表的な古典作品のリズムや響きなどを理解できる。 ⑧慣用句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句の意味や用法、抽象的な概念などを表す多様な語句について理解することができる。 ⑨自立語や付属語、指示語や接続語などの類別や働きを理解し、使うことができる。 ⑩新出漢字を書き、文章や文の中で使うことができる。 ⑪筆順に気をつけて文字を正しく丁寧に書くことができる。	・定期試験 ・漢字テスト ・文法テスト ・暗唱テスト ・スピーチ ・授業の様子
思考 判断 表現	<思考> ①客観的な根拠や理由に基づいて、自分の考えや意見を書くことができる。 ②文章の構成や論理の展開に沿って内容を読みとることができる。 ③事実や意見等を区別して読みとることができる。 ④登場人物に感情移入し、その心情を理解できる。 <判断> ①他者に配慮した話し方、聞き方ができる。 ②文章の構成や論理の展開に沿って内容を読みとることができる。 ③事実や意見等を区別して読みとることができる。 ④様々な描写をとらえ、内容を的確に理解できる。 ⑤登場人物に感情移入し、その心情を理解できる。 <表現> ①自分の考えや意見を整理し、根拠や理由を明確にした話ができる。 ②相手の話を受け、その内容を踏まえて自分の考えや意見を話すことができる。 ③場面や目的に応じた言葉を選び、表現に注意して情報を伝えることができる。 ④敬意表現を適切に使った話し方ができる。 ⑤聞きやすい発声(声量・速さ・声の調子など)で話すことができる。 ⑥大事なところを強調したり、間のとり方を工夫したりできる。 ⑦客観的な根拠や理由に基づいて、自分の考えや意見を書くことができる。 ⑧自分の気持ちなどが、正確に相手に伝わるように書くことができる。	・定期試験 ・漢字テスト ・作文課題 ・スピーチ ・授業の様子
主体的 に 学習に 取り組 む 態度	①自分で設定した課題に対して達成度を確認し、調整・修正しようとしている。 ②自分の考えをまとめようとしたり、進んで書き表したりしようとしている。 ③文章の書き手の思考や心情に迫ろうとしている。 ④様々な種類の文章に応じた読み方をし、内容を的確に理解しようとしている。 ⑤語句や文法、漢字について理解し、知識を身につけようとしている。 ⑥古典の音読や暗唱を通して、日本の伝統的な文化に親しもうとしている。	・定期試験 ・振り返り ・漢字テスト ・暗唱テスト ・授業の様子

4 「確かな学力」のためのアドバイス

1. 国語科の学習について

・国語科で身につけたい能力

- ・言葉の意味が正確に理解できて、その言葉を自分でも文字や音声で使いこなせる力
- ・自分の心の中にあるものを正確につかんで表現する力(文章表現力、口頭での表現力)
- ・人の表現したものを理解する力(読み取りの力)

そのために大事なことは…

- *表現の仕方に関心しながら、自分の考えを持つこと
- *言葉を自分の中に受け入れ、表現されていることを心で感じとること

・具体的に実践すること

- ①「話すこと」に力を入れ、スピーチの力を磨きます。そのために、「読む」(意見文や物語文の読解)→「書く」(意見文や分析文)→「発表」(スピーチ)という流れを授業に取り入れていきます。
- ②スピーチの力を磨くために、「書くこと」にも力を入れます。そのために、意見文や分析文を書く機会を設け、文章を書く力を伸ばしていきます。
- ③新出漢字を中心とした漢字の読み書きと言葉のきまりの学習では、新出漢字の書きを中心とした小テストを実施します。言葉のきまりや知識については、1年次に引き続き、系統的な学習をしていきます。

2. 授業のきまり

①話し合いを活発に行うこと

まずは、自分の思ったことや考えたことをほかの人に話すことが大切です。話している中で考えがまとまってきたり、新たな考えが出てきたりします。話がまとまっていなくてもとにかく話してみましょう。

②他の人の話をしっかり聞くこと

上の①で書いたように話し合いを活発にするためには聞き手の反応が大切です。自分の考えを話すことは簡単なようで難しいことです。うなずいたり相槌を打ったりして話しやすい環境を作りましょう。

3. 授業で使う道具

- ・教科書
- ・国語の学習(ワーク)
- ・タブレット
- ・ファイル
- ・単元別漢字
- ・自主学习ノート(※サイズは自由です)
- ・書写(※書道の授業の際に連絡をします)

○各自で準備が必要なものは「自主学习ノート」のみです。準備しておいてください。

4. 家庭学習について

定期試験とは別に、漢字や文法の小テストを行います。

国語力の基礎となる漢字の読み書きを定着させるためには、家庭での学習も不可欠です。

また、ワークを教科書と照らし合わせて解くことも読解力の向上につながります。

令和8年度 松戸市立常盤平中学校 学習の指針(シラバス)

教科	国語	学年	3年
----	----	----	----

1 学習の目的

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。</p> <p>(2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。</p> <p>(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。</p>
--

2 学習計画

	学習内容	学習のねらい
1 学期	<p>○文学的文章</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春に ・私 ・俳句の味わい <p>○説明的文章</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立ってくる春 ・なぜ物語が必要なのか ・薔薇のボタン <p>○古典</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅への思い <p>○言語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文法の小窓1 助詞のはたらき ・文法の小窓2 助動詞のはたらき ・情報を確かめてスピーチをする 	<p>○文学的文章</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の中の春を読む。 ・文章を吟味して読み、文章に表れているもの見方や考え方について批評する。 ・言葉の意味を掘り起こして読む。 <p>○説明的文章</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の種類を踏まえ、その展開の仕方に注目して、筆者の個性的な考えをとらえる。 ・知識や経験と結びつけて文章を読み、内容を評価する。 ・歴史的背景に注意しながら読み、文章の特徴を理解する。 <p>○言語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助詞の特性を理解する。 ・助動詞の特性を理解し、識別できるようにする。
2 学期	<p>○文学的文章</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最後の一句 <p>○説明的文章</p> <ul style="list-style-type: none"> ・async－同期しないこと ・問いかける言葉 <p>○古典</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌の調べ ・風情と心情－漢詩を味わう－ <p>○言語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手に対する配慮と表現 	<p>○文学的文章</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本を代表する作家とその作品についてふれ、近代の小説や物語を読む。 <p>○説明的文章</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張と根拠を結び付けて読み、筆者の立場やものの見方、考え方を捉える。 ・構成や展開、表現の仕方を比べて読み、社会や他社との関わりについて考える。 <p>○古典</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌の修辞と歴史的背景を意識しながら、古人の感じ方やものの見方を理解する。 ・詩の形式や表現の工夫などを理解して、情景や描写から心情を理解する。 <p>○言語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面や相手に応じた配慮の表現の一つとしての敬語のはたらきについて理解する。
3 学期	<p>○文学的文章</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初恋 ・故郷 ・パースデイガール 	<p>○文学的文章</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現上の工夫に注意して、音読、読解する。 ・語りに着目しながら読み、人間や社会、自然についての自分の意見を持つ。 ・自分の読書生活を振り返り、さまざまな本や文章を読む。

3 評価

項目	評価の内容	評価の方法
知識技能	①場面や目的に応じた言葉を選び、表現に注意して情報を伝えることができる。 ②敬意表現を適切に使った話し方ができる。 ③聞きやすい発声(声量・速さ・声の調子など)で話すことができる。 ④スピーチにおいて、大事なところを強調したり、間のとり方を工夫したりできる。 ⑤読み手が理解しやすい構成を意識して、文章を書くことができる。 ⑥表現技法の効果を理解できる。 ⑦代表的な古典作品のリズムや響きなどを理解できる。 ⑧慣用句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句の意味や用法、抽象的な概念などを表す多様な語句について理解することができる。 ⑨自立語や付属語、指示語や接続語などの類別や働きを理解し、使うことができる。 ⑩新出漢字を書き、文章や文の中で使うことができる。 ⑪筆順に気をつけて文字を正しく丁寧に書くことができる。	・定期試験 ・漢字テスト ・文法テスト ・スピーチ ・授業の様子
思考判断表現	<思考> ①客観的な根拠や理由に基づいて、自分の考えや意見を書くことができる。 ②文章の構成や論理の展開に沿って内容を読みとることができる。 ③事実や意見等を区別して読みとることができる。 ④登場人物に感情移入し、その心情を理解できる。 <判断> ①他者に配慮した話し方、聞き方ができる。 ②文章の構成や論理の展開に沿って内容を読みとることができる。 ③事実や意見等を区別して読みとることができる。 ④様々な描写をとらえ、内容を的確に理解できる。 ⑤登場人物に感情移入し、その心情を理解できる。 <表現> ①自分の考えや意見を整理し、根拠や理由を明確にした話ができる。 ②相手の話を受け、その内容を踏まえて自分の考えや意見を話すことができる。 ③場面や目的に応じた言葉を選び、表現に注意して情報を伝えることができる。 ④敬意表現を適切に使った話し方ができる。 ⑤聞きやすい発声(声量・速さ・声の調子など)で話すことができる。 ⑥大事なところを強調したり、間のとり方を工夫したりできる。 ⑦客観的な根拠や理由に基づいて、自分の考えや意見を書くことができる。 ⑧自分の気持ちなどが、正確に相手に伝わるように書くことができる。	・定期試験 ・作文課題 ・スピーチ ・授業の様子
主体的に学習に取り組む態度	①自分で設定した課題に対して達成度を確認し、調整・修正しようとしている。 ②自分の考えをまとめようとしたり、進んで書き表したりしようとしている。 ③文章の書き手の思考や心情に迫ることができる。 ④様々な種類の文章に応じた読み方をして、内容を的確に理解しようとしている。 ⑤語句や文法、漢字について理解し、知識を身につけようとしている。 ⑥古典の音読や暗唱を通して、日本の伝統的な文化に親しむことができる。	・定期試験 ・単元の振り返りシート ・漢字テスト ・授業の様子

4 「確かな学力」のためのアドバイス

1. 国語科の学習について

・国語科で身につけたい能力

- ・言葉の意味が正確に理解できて、その言葉を自分でも文字や音声で使いこなせる力
- ・自分の心の中にあるものを正確につかんで表現する力(文章表現力、口頭での表現力)
- ・人の表現したものを理解する力(読み取りの力)

そのために大事なことは…

- *表現の仕方に関心しながら、自分の考えを持つこと
- *言葉を自分の中に受け入れ、表現されていることを心で感じとること

・具体的に実践すること

- ①「話すこと」に力を入れ、スピーチの力を磨きます。そのために、「読む」(意見文や物語文の読解)→「書く」(意見文や分析文)→「発表」(スピーチ)という流れを授業に取り入れていきます。
- ②スピーチの力を磨くために、「書くこと」にも力を入れます。そのために、意見文や分析文を書く機会を設け、文章を書く力を伸ばしていきます。
- ③新出漢字を中心とした漢字の読み書きと言葉のきまりの学習では、新出漢字の書きを中心とした小テストを実施します。
言葉のきまりや知識については、1年次から系統的な学習をしていきます

2. 授業のきまり

①話し合いを活発に行うこと

まずは、自分の思ったことや考えたことをほかの人に話すことが大切です。話している中で考えがまとまってきたり、新たな考えが出てきたりします。話がまとまっていなくてもとにかく話してみましょう。

②他の人の話をしっかり聞くこと

上の①で書いたように話し合いを活発にするためには聞き手の反応が大切です。自分の考えを話すことは簡単なようで難しいことです。うなずいたり相槌を打ったりして話しやすい環境を作りましょう。

3. 授業で使う道具

- ・教科書
- ・国語の学習(ワーク)
- ・タブレット
- ・ファイル
- ・単元別漢字
- ・自主学習ノート(サイズは自由です)
- ・書写(持ち物は書道の授業の際に連絡します)

自分で準備するものは、「自主学習ノート」のみです。準備しておいてください。

4. 家庭学習

定期試験とは別に、漢字や文法のテストを行います。

国語力の基礎となる漢字の読み書きを定着させるためには、家庭での学習も不可欠です。